

はじめに

私は現在、千葉県船橋市の自宅にて、妻と共に「ヒーリング」という仕事をしております。2016年5月で丸4年を迎えましたが、住宅街の中で、看板も出さず、ご紹介のみにも関わらず、よく続いてきたなあと思っています。

「看板を出さず、ご紹介のみ」という理由は、一人娘（当時3歳）がおり、知らない人を自宅に招くのは怖いということ、また私たちが親しくさせていただいている方から広がる「出会いとご縁」を大切にしたいから。「出会いとご縁」を大切にするとこの考えは、私も妻も、もともとバックパッカーで、旅が好きだったことが一番の理由です。旅は、同じ旅人や現地の方との「出会いとご縁」によって描かれていきます。そして、自分にとって必要な旅であれば「出会いとご縁」は、ゴールまで続いていくものです。

私たちは「旅は人生の縮図」だと思っており、旅で感じた感覚を、日常に活かすことは、私たちが大切にしていることの一つです。ですから「私たちが必要とされれば、そのような方と出会い、ご縁が続いていくだろう」という気持ちで仕事をし、今もその「ご縁とお出会い」が続いています。

そんな私が、なぜこのような仕事をするようになったのか？

私は10年以上前に60歳で母を亡くしています。その頃、母は飲食店を3軒経営し、非常に多忙な日々を過ごしていました。ある時に胸が苦しいと救急車で運ばれ、ステージ4の肺癌と診断されました。一度は、抗がん剤を試みましたが、あまりの副作用で苦しんだため、抗がん剤以外の療法について、必要に迫られて、探し学ぶこと

になりました。残念ながら、その約半年後に母は亡くなりましたが、その時の経験から、近代医療とは違う、東洋医学、食事療法、ヒーリングなどの代替医療について興味を持ち、それらに触れ、学ぶ機会をいただきました。もう一つのきっかけは、2011年3月11日の東日本大震災です。私は学生を卒業してから30歳過ぎまでは、一人旅をしながら、シンガーソングライターを目指していましたが、この仕事の前は、約10年間、会社員の営業マンとして働いていました。しかし、あの日をきっかけに「自分たちの中で大切なものは何なのか？」と考えた結果、まず退職をして、私たち自身をリセットし、フラットな気持ちで、今後について考えることにしました。

実はその頃、妻はママ友を中心に、少しずつヒーリングを始めていました。そこで、少くくは手伝いをしようかと、当時、通っていたサロンの先生に教えていただき、ヒーリングを学び直しました。

そして、これからの生き方のヒントを探すべく、2012年の夏に、家族3人で、45日間、四国・九州へのリセットの旅へ出かけました。ワンボックスの車に、ヒーリング用の折りたたみ式ベッドとキャンプ道具をのせて、様々な方と出会い、それぞれの地域での、それぞれの生き方を目の当たりにすることで、私たちのリセットと今後の生き方を確認することができました。

その後、自宅を拠点にして、時には遠方へ、ヒーリングやセミナーの依頼をいただきながら、現在に至ります。そして、日々、ヒーリングの世界の奥深さを感じています。それは、身体の問題だけでなく、暮らし方、考え方、取り囲む環境など、様々なことが密接に関係し、その人の生き方を左右させ、さらに、その周囲の人たちにも影響を与えていくからです。

本書では、私たちが、旅やヒーリングを通じて感じてきた大切なこと、身体と心の健康、暮らし方、生き方などについて日常に活かせるヒントをお伝えしていきたいと思っています。身体や心の不調は「自分らしく、より

「良く生きたい」という、自分へのメッセージです。

「この世界で Only One のあなたが、ひかり輝く存在であるために」

そんな想いを込めて、本書が “ヒーリングブック” として、あなたの幸せのお手伝いができるよう、言葉を綴っていききたいと思います。



サロンにて、ヒーリングをお伝えする筆者



2012年の夏、家族3人で、45日間の四国・九州の旅へ（高知県にて）